



## オンラインセミナー「熱研夏塾」に参加しました！

7月19日（日）長崎大学感染症共同研究拠点の吉川禄助先生より、「人類とウイルスの攻防」というテーマで特別講義が開催されました。このセミナーは、2015年からSGH研究活動でお世話になっている長崎大学熱帯医学研究所の主催で開催されました。全国から参加可能で、WWL連携校である長崎西高校や長崎南高校からも参加がありました。本校からは中学3年生から高校3年生まで28名が参加しました。

ウイルスと細菌の違いや、日頃よく耳にするPCR法などの検出方法についてとてもわかりやすく説明していただきました。ウイルスの由来についての説明では、「人間の行動範囲が広がることで、動物内で保持されている未知なウイルスがヒト社会に入り込む可能性がますます増加する」ことに言及されました。一方、胎盤を獲得できたのはウイルスの遺伝子をDNAに組み込んだことによるもので、ウイルスは進化の原動力にもなるというお話しに、参加者から感嘆の声が上がりました。「野生動物内で蔓延しているウイルスの種類を調査することで、将来ヒトを脅かす存在になりうるか知ることができる」というウイルス調査の必要性が説かれ、アフリカのガボン共和国で実施された調査活動のお話に興味を持った生徒もいました。

吉川先生らの研究チームは、キャノンメディカルシステムズ株式会社と共同で新型コロナウイルスの診断キット（LAMP法）を開発され、PCR法よりも短時間（約40分）で診断が可能となっています。

### 参加者の感想（抜粋）

- ・コスタアトランチカでのクラスター発生時に、長崎には日本を代表する感染症対策の研究施設があるとテレビなどで紹介されていて、結果的に市中感染や医療従事者への感染も見られなくてすばらしいと思った。LAMP法は迅速で、軽量小型なので離島のある長崎や開発途上国にはとても適していると思う。
- ・今まではウイルスの良い面など想像したことすらなかったので、多くの動物の進化にウイルスの遺伝子が関わっていたことを知り、とても驚きました。
- ・オーストラリアでウサギを駆除するためにウイルスを用いた結果、ウイルスが弱毒化したというお話が印象的でした。宿主と共生するためにCOVID-19も弱毒化することを期待しながら、三密を避け、自分にできる感染症対策をとりたいと思います。



熱帯医学研究所長 森田先生の開会挨拶